

たかい 高井たまき 新聞



米軍基地から流出の有害PFOS いまだに解決ならず

米軍が使用している消化泡の製剤が、発がん性の有機フッ素であり、さらに現在も在日米軍基地内外で相次いで検出されている。この状態が、まだ解決を見ていない。有毒製剤自体を変えることや、排出される際には浄化機器を取り付けるなど、駐留米軍との連絡協議は続けてられている。

横須賀米軍の進捗は、冒頭、強調しているとおり何も見えない。というのも、横須賀市は、基地連絡協議会を20年7月31日付で脱退しているの、米軍とのやり取りは防衛省でもなく、県市連絡協議会でもなく、横須賀市は直接米軍とやりとりをする。同年、野田はるみ県議が一般質問をしたのを機として、横須賀市は会長である県との方向性の乖離を理由に脱退した。関係市でまとまらなくとも、直接、米軍基地と協議ができるかと踏んだのか。しかしその結果、我々横須賀市民としては知らさるべき重要な情報は、閉ざされた米軍と横須賀市に限られてしまったのだ。大村洋子市議は、本年9月、横須賀議会の臨時質問で、横須賀市の対応について、軍の外の7ヶ所で調査をしても希釈されて検査にならないと当然の見解を表していたが、それはもっともで、わざわざ横須賀市でなくても誰でも軍の外の海で検査はできることから、有効な検査とは言えない。それゆえ、横須賀市の独自路線は、市民が知るべき有効な情報公開と応急処置的ではない真の改善が本当になされるのか、時間を測りながら我々が注視していくことが必須である。



県内提供施設一覧表



(令和元年7月1日現在)

神奈川県基地関係県市連絡協議会

会長	神奈川県知事	黒岩 祐治
副会長	横浜市長	林 文子
副会長	相模原市長	木村 賢太郎
副会長	横須賀市長	上 地 寛 明
横浜市長	鶴 木 恒 夫	
逗子市長	綱ヶ谷 美	
大和市長	大 木 啓	
海老名市長	内 野 肇	
海老名市長	遠 藤 三紀夫	
鎌倉市長	古 坂 敏 由	

横浜マラソン

女性走者、駆け抜ける！

2022年10月30日(日)、「2022 Yokohamaマラソン」が開催された。今年の参加者は約1万9千人。ハロウィンと重なり、順位にこだわらないランナーは、思い思いの衣装で、マラソンを楽しんでいた。走者らはボランティアで参加した私の傍を駆け抜ける。真剣な眼差しには、人を感動させる力がある。

すると、走者の流れが終盤に入り、いつ脱落してもおかしくない表情の走者が途切れ途切りに現れたとき、給水場の先でボランティアの男性が、抜群の腕前でハーモニカを何曲も何曲も優しい眼差しで奏でていた。走者はハーモニカの音が耳に入ったのか一瞬、顔がピリッと引き締まった。1つのことを貫徹させるために、知らない者同士でも支え合っている一瞬に出会えた。

貴重な時間をありがとう！このひと時をもっと多くの人と共有するべきだ。しかし、今年の走者の男女比は、男性約1万7千人強に対して、女性は約3千人弱。うーん、あまりにも少なすぎる女性走者。日常のランナーがそもそも少ないのか。マラソンに男女が同数でなければいけない理由は、まだ見つからない。でも、この大会は走者だけでなく、必死に走る姿を見守る沿道の者もいる。老若男女、何かを感じ取って自分の明日に繋げる機会にもならないか。私の場合は自然に「女性走者、駆け抜ける！」まず、そう感じた。



ハーモニカの男性



KSVBの70代男性

学校を巻き込むな!



「国葬(9月27日)対応を巡り要望書」(読売新聞2022年9月23日付)のとおり、我々は横須賀市に提出した。国葬については、国葬当日も最後まで抵抗の姿勢を止めず、朝の通勤、通学路であるYデッキで行った。しかし、国葬は執り行われた。国会で審議されずに、閣議決定だけで決められた国葬は、国論も二分されたままであった。

子ども達に、国葬をどう説明するのか。前号で掲載した社民党党首の福島みずほ氏と宇都宮健児氏も、国葬が及ぼす子供達の影響を大いに懸念していた。我々は、国葬の日に学校や教育機関に、弔意や半旗を強要しないように要請したに留まらず、独自で市内全域の教育機関に朝の登校日の時間帯に絞り調査をした。

その結果、市内1校の半旗が確認できた。管理職のコメントは、次の通りである。「市をあげて、半旗を掲揚しているんだから、(半旗を)掲揚している。」ということであった。

そこで、市に今回の学校対応を巡って、返答を求めた結果(同年10月3日付再要請書)、次の文書がきた。「学校には、半旗を求めている」ということであった。解するに、学校は市に要請はされていないが、市側は、東京新聞の記事(2022年9月6日付)で「国葬の当日に、市役所本庁舎や行政センターで弔意を表すために、半旗をあげることを5日に、横須賀市長は発表した」ことから、学校側は同じように弔意を表さなければいけないと判断し、半旗をあげたのか。だとしたら、これは本当に重要な問題である。

本来、学校は政教分離である機関でなければならない。しかし、時の政権が独断で断行した儀式に、加担しなくてはならない暗黙の影響が及んでいることが、今回の小学校の半旗掲揚で判明したことになる。

再要請書で、我々はもう一度、横須賀市にお願いをした。この渾沌にまだ終わりが見えないのを前提とし、学校を政権の情勢に加担させないでほしいと要請した。

尚、今回の調査の過程で、半旗を掲揚しているかについて、管理職の確認をした上で、一切、答えないと言う小学校が存在した。この事実が、この国葬をきっかけに、半旗をあげたかどうか以前の重大な問題であることがわからない管理職がいたということである。公的な教育機関でありながら、かたや「開かれた学校」としながらも、社会的な情報を市民に対して、隠匿、隠覆(いんとく、おんぷく)した事実である。隠さなければならぬ事を、学校で子ども達に伝えられるのか。第二次大戦中に、学校が、教育が、生徒が巻き込まれ、戦争に加担していった負の記憶を忘れてはならない。教育は誰のための教育か。二度と起こらないように、いつまでも問い続ける。

国葬対応を巡り要望書
須賀元首相の国葬を巡り、横須賀市の元教員ら3人が22日、上地明市長に対して、半旗掲揚を市立学校に対して強要しないよう求める要望書を出した。教員らは、市庁舎で半旗を掲揚するが、黙とうや記帳所の設置は行わず、市教育委員会への協力は求めないことを示している。一方、鎌倉市長と市議会議長、市教育長に対し、国葬に市として対応しないよう要請した。

読売新聞
2022/9/23

横須賀市長 上地 克明

令和4年(2022年)10月19日

佐藤 江都子 様
須田 晴子 様
高井 謙 様

横須賀市長 上地 克明

安倍晋三元首相の「国葬」実施日の学校対応を受け、再要請書について(回答)

このたび令和4年(2022年)10月3日付で提出のありました標記に係る要請に対して、下記のとおりご回答申し上げます。

記

(回答)
教育委員会に対して半旗掲揚や黙とうなどの協力は求めていません。なお、教育委員会では、国葬当日に半旗を掲揚した市立小中学校はなかったと聞いております。

事務担当は、横須賀市総務部総務課 電話 046-822-8148

安倍晋三元首相の「国葬」実施日の学校対応を受け、再要請書

横須賀市長 上地克明 敬

拝見。9月23日付安倍晋三元首相の国葬実施日において市立学校の校舎の飾りや旗竿の飾りなどを変更して行わない等の要請を、先般、貴教育委員会の担当である上地明市長より提出いただきました。しかしながら、貴校に懸念される要請が認められなかったことにつきまして、さらにご苦情をいただき、誠に申し訳ございません。今後、再度提出いたします。

質問事項①(上記記載)、市内の小中学校24校を対象に、当該日までに要請した結果、

- ・半旗の掲揚がなされていた=1校
- ・「半旗の掲揚については(懸念)はない」と回答=1校
- ・計、2校の学校対応を要請いたしました。

国葬が二分している国論については、「学校現場で強要しない」という前提(2022年9月6日付東京新聞)は、一定の理解を得られましたが、貴市長自らおっしゃられているように、半旗の掲揚に踏み出した学校は、「国葬当日に、弔意を表明している」と、強要した」と、回答した。何のために強要したのか、貴校現場を念頭に強要したのか、無念さを感ぜられました。

また、今回の結果を受け、重大な問題として、公的な教育機関で、社会に開かれた学校づくりを推進し、半旗を本気で掲揚しているかどうか(市立)を答えられない、という学校現場に、強い要請が学校現場において、なされたという事実には、同じく貴校と地域に対する気遣いがあることを強く感じました。

地方自治体や学校現場の強要に対して、何らかの理由が学校づくりを推進し、半旗を掲揚し、地域とともに歩む学校を創出したいと考えているが、今後の国葬の準備をさらに1校の学校の対応を受け、貴自治体の方針と貴校現場との間に理解が生まれていることを強く感じています。

国葬については、社会で多くの議論が重ねられ、未だ結論が出していないのが現状であります。再三の要請ではありますが、改めて、教育現場は、「公正で公平な社会」について子どもたちが学んでいく場であることをもう一度強調いたします。同時に社会奉還に努められよう。横須賀市長が教育現場に各々各学校に強要した結果を受けていただき、重ねて要請を致します。

以上、再要請書をご提出いたします。

令和4年(2022年) 10月 03日

敬請者 伊藤 江都子
同 須田 晴子
同 高井 謙

高井たまきプロフィール



明治大学政治経済学部政治学科卒業
横浜国立大学大学院教育学研究科修了
モラトリアム期間に、横須賀さいか屋
(大通り館や新館がまだある頃、新館に3年間)勤務
東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子細胞生物学研究
研究支援
神奈川県下の中学・高校10年以上勤務 社会科教諭
議員秘書
上町病院に生まれ、現在上町に在住



高井たまきを
応援する会
会員募集中
会費無料

FAX/TEL
0468-27-8029
横須賀市本町1-9
三協ビル3F